

道徳 だより

令和5(2023)年11月30日

国立市立国立第七小学校

校長 小畑 行広

道徳担当 野間 大佑

第4号

先日のおタムフェスティバルは、いかがでしたでしょうか。各学年が、演目の内容にメッセージ性をもたせ、見ていて楽しいだけではなく、大人も考えさせられるものとして表現することができました。また、子供たちのこれまでの成長を感じるとてもよい時間にもなりました。

さて、今回は11月に4年生で実施した、第4回研究授業の様子をお伝えします。

研究授業④

◆中学年分科会 4年2組 教諭 高野悠人

日時:11月10日(金)5校時 主題名:よく考えて行動する(A 節度、節制)

ねらい:よく考えて行動し、節度ある生活をしようとする態度を育てる。

教材名:「いっしょになって、わらっちゃだめだ」(出典:「新訂 新しい道徳4」東京書籍)



今回の授業の教材は、「いじめ」や「いじり」が扱われているものでした。はじめは軽い気持ちで友達のことをからかっていた主人公の「ぼく」が、自分の行動が友達を傷付け、「いじめ」になっているのではと感じるようになります。その後は、周りの子に「やめよう」とは言えず、「一緒になって笑っちゃだめだ。」と葛藤し、その結果、「ぼく」は、他の友達に同調せず、教室から黙って立ち去ることで、自分にできる行動をしたという内容です。

今回の授業では、「いじめはダメ」ということを大前提にしながら、「よく考えて行動する」ことについて、教材を通して考えることをねらいとしていました。印象的だったのが、授業の冒頭で、高野先生が教材文を読んだ時です。教材の中で行われているやりとり(後に主人公が「よくない」と感じる行動)に対して、4年2組の子供たちも自然と笑っていましたが、話が進んでいき、主人公が葛藤するようになると、表情も一変し、笑う人は誰もいなくなっていました。まさに教材の世界にどっぷりと入っていました。それによって、その後の活動でも、より主体的に学習に臨むことができていました。教材の題名のように「一緒になって笑っちゃだめだ」と自省する「ぼく」の気持ちを考えることで、子供たちから「やりすぎはよくない」など、今回のねらいである節度、節制という道徳的価値に迫ることができました。



授業後の教員による協議会では、今回も様々な意見が交わされ、時間が足りなくなるほどよい協議会になりました。最後に、講師の石丸憲一先生からいただいたご指導の一部を紹介します。

○教材の内容をうまく整理し、主人公の心情の変化が分かりやすくなる授業展開になっていた。

○児童が積極的に学習に取り組むことができている、自分の思いや考えを自分の言葉で話したり書いたりできていた。

○高野先生の授業に対する強い意欲が伝わってきた。

○「ぼく」が教室から黙って立ち去ることは、よい判断と言えるのだろうか。その点について深掘りしていくことで、今日の授業の目標に更に迫り、ザワつく道徳授業につながっていく。

道徳の授業は、子供だけではなく、私たち教師も考えさせられることがあります。七小では、教師が特定の価値を一方向的に教え込むのではなく、子供たちと「一緒になって考えていこう!」という思いで研究を進めています。今後も、より積極的に授業改善に取り組んでいきます。来月は、2年生で研究授業を行います。